

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	理学療法治療学(神経筋疾患)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (3) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時限	通年	教室名	普通教室 機能訓練室
担 当 教 員	澤田 誠、土居 潤平	実務経験と その関連資格	理学療法士として勤務。主業務は神経難病のリハビリテーションに従事している。			
《授業科目における学習内容》						
神経難病(パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症等)についての理学療法を学習する						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験(100%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ、中山書店						
《授業外における学習方法》						
授業を理解するために予習・復習を通して、自主的に調べ学習を行なうこと。						
《履修に当たっての留意点》						
試験(定期試験、小テスト)で不正行為が認められた者は、履修規定第4章16条に従い、当該科目を無効とする。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳の構造と機能を理解する	指定テキスト	講義の復習を行う(60分) 脳の構造と機能	
	各コマにおける授業予定		大脳基底核、小脳、脳幹			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	神経難病について理解する	指定テキスト	講義の復習を行う(60分) 神経難病について	
	各コマにおける授業予定		神経変性、脱髄疾患の概要			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	パーキンソン病の病態を理解する	指定テキスト	講義の復習を行う(60分) パーキンソン病	
	各コマにおける授業予定		パーキンソン病の概説			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	パーキンソン病に対するリハビリテーションと理学療法について理解する	指定テキスト	講義の復習を行う(60分) パーキンソン病に対する理学療法	
	各コマにおける授業予定		理学療法の目的、考え方			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	パーキンソン病に対するリハビリテーションと理学療法について理解する	指定テキスト	講義の復習を行う(60分) パーキンソン病の評価項目	
	各コマにおける授業予定		評価、アプローチ			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	パーキンソニズムを呈する神経変性疾患(パーキンソン病等)の神経学的症候について理解し説明できる。		指定テキスト 配布資料	事前学習(30分) 指定テキストを読む :パーキンソン病の症状 事後学習(テキスト・動画等) (30分) 講義の振り返り
	各コマにおける授業予定	パーキンソニズムを呈する患者の神経学的評価			
第7回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	パーキンソニズムを呈する神経変性疾患(パーキンソン病等)の運動機能障害評価について理解し説明できる。		指定テキスト 配布資料	事前学習(30分) 指定テキストを読む :パーキンソン病の運動機能障害 事後学習(テキスト・動画等) (30分) 講義の振り返り
	各コマにおける授業予定	パーキンソニズムを呈する患者の運動機能障害評価			
第8回	講義演習形式 各コマにおける授業予定	軽度パーキンソニズムを呈する神経変性疾患(パーキンソン病等)の理学療法アプローチについて理解し説明できる。		指定テキスト 配布資料	事前学習(30分) 指定テキストを読む :パーキンソン病の理学療法 事後学習(テキスト・動画等) (30分) 講義の振り返り
	各コマにおける授業予定	軽度パーキンソニズムを呈する患者に対する理学療法			
第9回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	中等度パーキンソニズムを呈する神経変性疾患(パーキンソン病等)の理学療法アプローチについて理解し説明できる。		指定テキスト 配布資料	事前学習(30分) 指定テキストを読む :パーキンソン病の理学療法 事後学習(テキスト・動画等) (30分) 講義の振り返り
	各コマにおける授業予定	中等度パーキンソニズムを呈する患者に対する理学療法			
第10回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	重度パーキンソニズムを呈する神経変性疾患(パーキンソン病等)の理学療法アプローチについて理解し説明できる。		指定テキスト 配布資料	事前学習(30分) 指定テキストを読む :パーキンソン病の理学療法 事後学習(テキスト・動画等) (30分) 講義の振り返り
	各コマにおける授業予定	重度パーキンソニズムを呈する患者に対する理学療法			
第11回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	小脳性運動失調を呈する神経変性疾患(脊髄小脳変性症等)の神経学的について理解し説明できる。		指定テキスト 配布資料	事前学習(30分) 指定テキストを読む :小脳性運動失調について 事後学習(テキスト・動画等) (30分) 講義の振り返り
	各コマにおける授業予定	小脳性運動失調を呈する患者の神経学的評価			
第12回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	小脳性運動失調を呈する神経変性疾患(脊髄小脳変性症等)の運動機能障害について理解し説明できる。		指定テキスト 配布資料	事前学習(30分) 指定テキストを読む :小脳性運動失調について 事後学習(テキスト・動画等) (30分) 講義の振り返り
	各コマにおける授業予定	小脳性運動失調を呈する患者の運動機能障害評価			
第13回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	脊髄小脳変性症等の理学療法アプローチについて理解し説明できる。		指定テキスト 配布資料	事前学習(30分) 指定テキストを読む :脊髄小脳変性症の理学療法 事後学習(テキスト・動画等) (30分) 講義の振り返り
	各コマにおける授業予定	脊髄小脳変性症患者に対する理学療法			
第14回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	軽度パーキンソン病の理学療法アプローチの実際について理解する。		指定テキスト 配布資料	講義の復習を行う(60分) パーキンソン病に対する理学療法
	各コマにおける授業予定	軽度パーキンソン病の理学療法の症例検討			
第15回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	中等度パーキンソン病の理学療法アプローチの実際について理解する。		指定テキスト 配布資料	講義の復習を行う(60分) パーキンソン病に対する理学療法
	各コマにおける授業予定	中等度パーキンソン病の理学療法の症例検討			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	理学療法治療学(神経筋疾患)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (3) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時限	通年	教室名	普通教室 機能訓練室
担 当 教 員	澤田 誠、土居 潤平	実務経験と その関連資格	理学療法士として勤務。主業務は神経難病のリハビリテーションに従事している。			
《授業科目における学習内容》						
神経難病(パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症等)についての理学療法を学習する						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験(100%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ、中山書店						
《授業外における学習方法》						
授業を理解するために予習・復習を通して、自主的に調べ学習を行なうこと。						
《履修に当たっての留意点》						
試験(定期試験、小テスト)で不正行為が認められた者は、履修規定第4章16条に従い、当該科目を無効とする。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	多発性硬化症の病態を理解する	指定テキスト	講義の復習を行う(60分) 多発性硬化症	
	講義演習形式	各コマにおける授業予定	多発性硬化症の病態と機能障害			
第17回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	多発性硬化症に対するリハビリテーションと理学療法について理解する	指定テキスト	講義の復習を行う(60分) リスク管理	
	講義演習形式	各コマにおける授業予定	理学療法の考え方、リスク管理、評価、アプローチ			
第18回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	筋萎縮性側索硬化症の病態を理解する	指定テキスト	講義の復習を行う(60分) 筋萎縮性側索硬化症	
	講義演習形式	各コマにおける授業予定	筋萎縮性側索硬化症の病態と機能障害			
第19回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	筋萎縮性側索硬化症に対するリハビリテーションと理学療法について理解する	指定テキスト	講義の復習を行う(60分) リスク管理	
	講義演習形式	各コマにおける授業予定	理学療法の考え方、リスク管理、評価、アプローチ			
第20回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	筋ジストロフィーの病態を理解する	指定テキスト	講義の復習を行う(60分) 筋ジストロフィーの種類	
	講義演習形式	各コマにおける授業予定	筋ジストロフィーの概要			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	筋萎縮性側索硬化症の神経学的症候について理解し説明できる。	指定テキスト 配布資料	事前学習(30分) 指定テキストを読む :筋萎縮性側索硬化症について 事後学習(テキスト・動画等) (30分) 講義の振り返り
		各コマにおける授業予定	筋萎縮性側索硬化症患者の神経学的評価		
第22回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	筋萎縮性側索硬化症の運動機能障害について理解し説明できる。	指定テキスト 配布資料	事前学習(30分) 指定テキストを読む :筋萎縮性側索硬化症について 事後学習(テキスト・動画等) (30分) 講義の振り返り
		各コマにおける授業予定	筋萎縮性側索硬化症患者の運動機能障害評価		
第23回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	筋萎縮性側索硬化症患者の理学療法アプローチについて理解し説明できる。	指定テキスト 配布資料	事前学習(30分) 指定テキストを読む :筋萎縮性側索硬化症の理学療法 事後学習(テキスト・動画等) (30分) 講義の振り返り
		各コマにおける授業予定	筋萎縮性側索硬化症患者に対する理学療法		
第24回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	筋ジストロフィーの神経学的症候について理解し説明できる。	指定テキスト 配布資料	事前学習(30分) 指定テキストを読む :筋ジストロフィーについて 事後学習(テキスト・動画等) (30分) 講義の振り返り
		各コマにおける授業予定	筋ジストロフィー患者の神経学的評価		
第25回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	筋ジストロフィーの運動機能障害について理解し説明できる。	指定テキスト 配布資料	事前学習(30分) 指定テキストを読む :筋ジストロフィーについて 事後学習(テキスト・動画等) (30分) 講義の振り返り
		各コマにおける授業予定	筋ジストロフィー患者の運動機能障害評価		
第26回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	筋ジストロフィー患者の理学療法アプローチについて理解し説明できる。	指定テキスト 配布資料	事前学習(30分) 指定テキストを読む :筋ジストロフィーの理学療法 事後学習(テキスト・動画等) (30分) 講義の振り返り
		各コマにおける授業予定	筋ジストロフィー患者に対する理学療法		
第27回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	多発性硬化症の神経学的症候・運動機能障害について理解し説明できる。	指定テキスト 配布資料	事前学習(30分) 指定テキストを読む :多発性硬化症について 事後学習(テキスト・動画等) (30分) 講義の振り返り
		各コマにおける授業予定	多発性硬化症の神経学的評価・運動機能障害		
第28回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	多発性硬化症患者の理学療法アプローチについて理解し説明できる。	指定テキスト 配布資料	事前学習(30分) 指定テキストを読む :多発性硬化症の理学療法 事後学習(テキスト・動画等) (30分) 講義の振り返り
		各コマにおける授業予定	多発性硬化症患者に対する理学療法		
第29回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	筋萎縮性側索硬化症の理学療法の実際を理解する	指定テキスト	講義の復習を行う(60分) 筋萎縮性側索硬化症
		各コマにおける授業予定	筋萎縮性側索硬化症の症例検討		
第30回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	筋萎縮性側索硬化症の理学療法の実際を理解する	指定テキスト	講義の復習を行う(60分) 筋萎縮性側索硬化症
		各コマにおける授業予定	筋萎縮性側索硬化症の症例検討		